

12月FOMCと今後の米国株式市場の見通し

情報提供資料



12月FOMC結果要旨：7年ぶりとなるゼロ金利解除を決定

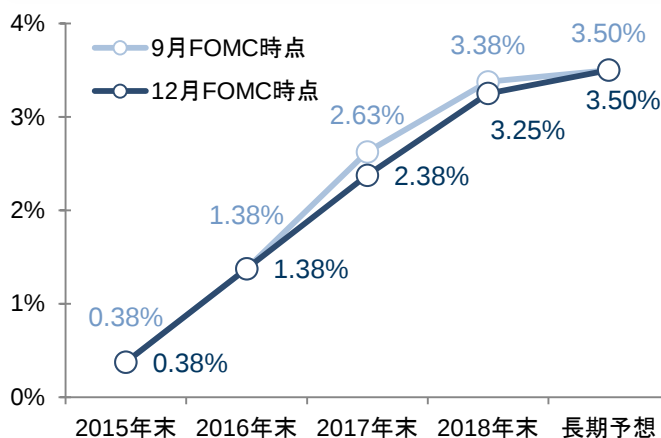
政策金利の引上げを決定

- FRB(米連邦準備制度理事会)は、12月16日のFOMC(米連邦公開市場委員会)で、政策金利であるFF金利(フェデラル・ファンド)の誘導目標を0.25%引上げ0.25~0.50%とすることを全会一致で決定しました。声明文では「労働市場の著しい改善が進み、インフレ率が中長期的に目標の2%に向けて加速するとの確信を得た」とし、2008年の金融危機に対処した前例のない金融緩和策の歴史的転換を発表しました。

焦点は今後の利上げペース

- FOMC参加者による政策金利見通しでは、2016年末の予想(中央値)は1.38%と前回9月の予想値と一致しています。これは0.25%の引き上げであれば、年4回の利上げが実施されることを示唆しています。イエレンFRB議長は、今回の利上げ後も金融政策姿勢は引き続き緩やかであると述べ、今後の利上げについても「緩やかな」ペースとなる見通しを強調しました。

政策金利見通し(FOMC参加者の予測中央値)



出所：ブルームバーグ 時点：2015年12月16日、2015年9月17日

米国株式市場への影響と今後の見通し

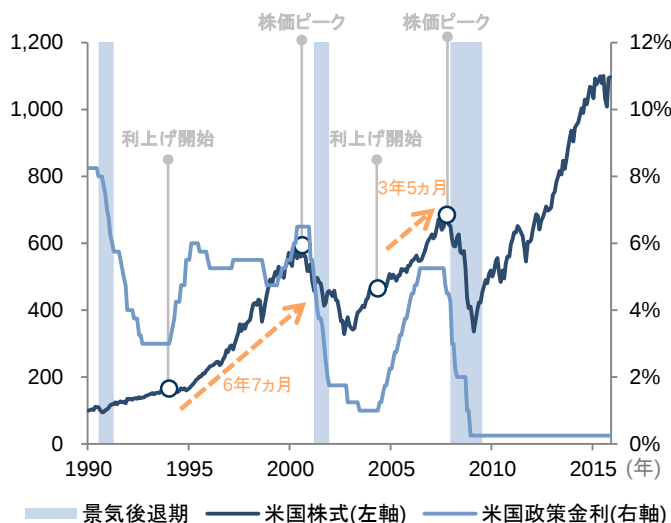
米国株式市場はFRBの姿勢を好感

- 市場参加者は概ね利上げを織り込んでいたため、今回の決定に伴うサプライズは回避された形となりました。市場では、今後の利上げペースは緩やかなものにとどまるとの観測や、金融政策を巡る不透明感の後退を好感し、12月16日の米国株式市場(S&P500株価指数)は+1.5%の上昇となるなど、リスク選好の動きが広がりました。

利上げ開始は堅調な米国経済の証左

- 利上げ開始はFRBの米国経済に対する自信の表れであり、米国経済が安定した景気拡大を続けている証左となります。
- 当社では、景気拡大に伴う企業業績の拡大に沿う形で、**米国株式市場の上昇トレンドは今後も継続すると**考えています。また、このような金融相場から業績相場への移行が一段と進行する環境下では、良好な利益成長が見込まれる銘柄が株式市場の上昇を牽引すると考えられます。
- 過去2回の景気サイクルでは、利上げ開始から株価がピークを迎えるまでの期間は、**平均5年**と長期に渡りました。また、着実な米国経済の拡大が、金利上昇によるマイナスの影響を上回ったため、その間の米国株式市場は**年率平均+16.7%**と堅調に推移しました。

米国の景気循環、株価、政策金利の推移



出所：GSAM、ブルームバーグ、全米経済研究所(NBER)

期間：1990年1月末～2015年11月末、米国株式：S&P500株価指数(配当込み、米ドルベース)、1990年1月末を100として指数化、景気後退期はNBERによる景気判断に基づく